



令和2年11月1日(日)、総合教育センターにおいて、午前中にチャレンジコースの受講者対象(オープンコースも聴講可)の特別講座3を実施しました。全3回の特別講座も最終回になりました。各校種・教科について、より専門的に学ぶことができたでしょうか。今回も各講座を概要としてまとめました。

小学校「小学校における学級経営」

小学校における学級経営では、自分のパラダイムに固執して物事を見たり判断したりするのではなく、多面的に捉えていくものの見方・判断が重要である。

また、学級開きからの「3日間」「7日間」「30日間」で、子どもたち一人ひとりに目標を持たせて、民主的なコーディネーターとしての教師の役割を果たすことも欠かせない。

加えて大切なことは、児童が協力し合い協同体として過ごしていける「対人関係」をつくることである。教員自身が子どもを批判せず信頼し、児童の模範となっていくことで、子どもたちの居場所となる学級が作り上げられていくのである。



高柳 俊彦 教育指導員

特別支援学校「特別支援学校の現状と課題」

義務教育段階の児童・生徒数が減少している中、特別支援教育の対象となる児童・生徒数は増加している。特別支援学校の課題としては、知的障害教育部門高等部の在籍者数や医療的ケアを必要とする児童・生徒数、人工呼吸器を始めとする高度なケアを必要とするケース数の増加に対する教育環境の整備が挙げられる。そのような中で、特別支援学校の教員として求められているものは、多様な障害や病気に対する知識・技能、一人ひとりの特性に応じた指導や支援実践の蓄積である。また、そのベースとして、アセスメント力やコミュニケーション力を高め、地域における「センター的機能」を担う一員として、専門性を向上していかなければならない。



柴山 洋子 教育指導専門員

中学校英語又は高等学校英語 「英語科における授業づくり」

授業を行う前に、授業を通して育てたい生徒像を明確化することが大切である。最終到達目標を達成するために、学年、単元、本時といった各段階における目標をCAN-DOリストの形で定めておき、前時と本時、次時のつながりを考えて学習計画を立てることが重要である。これまでの授業は、やり取りや即興性を意識した言語活動が不十分であるとされ、言語活動の充実には校種間で学びを接続させることや、目的や使用場面を意識した活動を設定することが重要である。また、生活の中で使われている英語を授業で用いることも有効である。



片倉 孝裕 指導主事